



BEATA MUSICA TOKIENSIS 16TH CONCERT

ベアータ・ムジカ・トキエンシス 第16回公演

ベーパー「マルコ受難曲」

～ ドイツ・プロテスタントの受難節 ～

レクチャー付きコンサート



アンブロジウス・ベーパー マルコ受難曲

Ambrosius Beber (fl.1610-1620) Markus-Passion

アントニオ・スカンデッロ キリストはまことに私たちの弱さを

Antonio Scandello (1517-1580) Christus vere languores nostros

バルトロメウス・ゲジウス お父さん、私は罪を犯しました

Bartholomäus Gesius (1555-62 -1613) Pater peccavi

ミヒャエル・プレトリウス 私たちが苦しみの極みにあるとき

Michael Praetorius (1571-1621) Wenn wir in höchsten Nöten sein

他

※曲目は予告なく変更することがございます。

ベアータ・ムジカ・トキエンシス Beata Musica Tokiensis

鏑木綾・森川郁子・長谷部千晶・及川豊・田尻健・小笠原美敬

レクチャー 加藤拓未 賛助出演 大野彰展

2025年

聖グレゴリオの家チャリティーコンサート

3月8日(土)14:30開演(14:00開場)

聖グレゴリオの家 聖堂

3月12日(水)19:00開演(18:30開場)

日暮里サニーホールコンサートサロン

※いずれも開演15分前より、加藤拓未氏によるレクチャーがございます。

■チケット(全自由席)

一般 4,500円 (当日 5,000円)

ペア 8,500円 学生 2,500円

※学生券は、当日受付にて学生証をご提示下さい。

※ペア券の取り扱いには前売りのみとなります。

■チケット取扱

オフィスサワイ 090-2243-3210(直通)

E-mail: officesawaimusic@gmail.com

teket(テケト)

聖グレゴリオの家公演 <https://teket.jp/6691/43219>

日暮里サニーホール公演 <https://teket.jp/6691/43221>

公演内容に関するお問い合わせ:トキエンシス beatamusicatoki@gmail.com 042-455-1997(公演当日以外)

主催:ベアータ・ムジカ・トキエンシス(公式サイト <http://beatamusicatoki.wix.com/beatamusicatokiensis>)

teket
QRcode



ベアータ・ムジカ・トキエンシスが紹介して来た「知られざる受難曲」シリーズ第4段！
 ラッソ、スカンデッロ、デマンティウスに続いてご紹介するのは、アンブロジウス・ベバー。
 謎多き作曲家ベバーの作品で現存するのは、何とこの「マルコ受難曲」のみ。
 歴史の中にほぼ埋れかけていたこの作曲家の音楽を、現代日本に蘇らせます。
 それ以外にも、この演奏会を逃したら次はいつ聴けるかわからない貴重な曲ばかりです。
 同時代にドイツで活躍していたスカンデッロ、ゲジウス、プレトリウスらのモテットと共に、
 ドイツで紡がれた受難曲や受難節のモテットを、どうぞお聴き下さい。

《Beata Musica Tokiensis メンバー紹介》



鎌木 綾(かぶらき あや/ソプラノ)

東京生まれ東京育ち。幼少期から歌うことが好きで、10歳の時に小学校の聖歌隊に入り、賛美歌やハンドベルを通してキリスト教音楽に親しむ。国立音楽大学附属高等学校音楽科へ進学。同時期に中世音楽合唱団に入り、グレゴリオ聖歌やルネサンス音楽を歌う楽しみを知る。

国立音楽大学声楽科へ入学し、西洋古楽コースでバロック音楽を学ぶ傍ら、日本伝統音楽コースで三味線を専攻し、長唄囃子のサークルに入り、長唄にも魅了される。ハンドベルもサークルに入って続ける。東京藝術大学大学院古楽科バロック声楽専攻修士課程修了。



長谷部 千晶(はせべ ちあき/ソプラノ)

フェリス女学院大学音楽学部器楽学科卒。声楽を花井尚美、鈴木美登里、原雅巳、古楽声楽アンサンブルを花井哲郎の各氏に師事。ルネサンスのアカペラアンサンブルをメインに活動する他、ジェスチャー付バロック・オペラにも多数出演、指導アシスタントを務める。ルネサンス期の記譜法である白色計量記譜法を指導。アカペラ編曲も手掛ける。解剖学、心理学、脳科学を使った「うたうからだ学®」メソッドによる歌唱指導と普及にも尽力している。「レ・グラース」「ベアータ・ムジカ・トキエンシス」各メンバー。



田尻 健(たじり たけし/テノール)

熊本県出身。関西学院大学法学部法律学科卒業。エリザベト音楽大学大学院音楽研究科宗教音楽専攻修士課程修了。フランスのオーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方音楽院にてバロック声楽のDEM(音楽研究資格)取得。ヘンデルの「メサイア」、バッハの「ロ短調ミサ」、モーツァルトの「レクイエム」などのソリストとして様々なコンサートに出演。オペラではヘンデルの「アルチーナ」オロンテ役、ラモーの「プラテー」テスピス役などを演じる。エリザベト音楽大学非常勤講師。



大野 彰展(おおの あきのぶ/テノール、賛助出演)

国立音楽大学及び同大学院音楽研究科を経てスイス、バーゼル音楽院スコラ・カントルム声楽科修士課程を優秀な成績で修了。在学中より欧州を中心にソリストとして著名な団体と共演するほか、ヨーク古楽祭、MA Festival等主要な古楽祭にも多数客演し好評を博した。

2024年4月完全帰国。EBifreyer Barockorchester, Il Madrigalone 代表。現在、国立音楽大学演奏補助員。



森川 郁子(もりかわ ゆうこ/ソプラノ)

桐朋学園大学卒業、同研究科2年修了。イタリア初期バロック時代のマドリガーレを中心に、中世から近現代音楽まで、ソリスト、アンサンブル歌手として幅広い分野で演奏活動を行う。これまでに日伊修好150年記念オペラ「ジャパン・オルフェオ」、ラモー「プラテー」等のバロック・オペラに出演する他、宗教曲のソリスト、ラ・フォンテヴェルデ、エクスノーヴォ他、声楽アンサンブルの一員としても多くの演奏会に出演。「ドルチェアマロ」「レ・グラース」「カペラッテ」「ヴォーカルコンサート東京」「アンサンブルレニブス」各メンバー。アイゼナハ音楽院講師。



及川 豊(おいかわ ゆたか/テノール)

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。バッハのカンタータや、シュツツ、シャルパンティエ、ヘンデル、モーツァルトの宗教曲を中心にソリストを務める。福音史家としてはバッハのみならず、H. ディストラ、ヘルツォーゲンベルクの受難曲においても好評を得た。グレゴリオ聖歌・中世・ルネサンス期のアンサンブルの分野においても活躍しており、ヴォーカルアンサンブルカペラ、ラ・フォンテヴェルデ、聖グレゴリオの家聖歌隊「ファヴォリート」の多くの演奏会、録音に参加。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。



小笠原 美敬(おがさわら よしたか/バス)

東京藝術大学大学院修了。平成14年度文化庁芸術家在外研修員としてドイツに留学。故・小笠原克美、高橋大海、マックス・ファン・エグモント、故・ノーマン・シェラー、ペーター・コーイの各氏に師事。ライニッシェ・カントライ、コレジウム・ヴォカレ・ゲント、BCJなど世界屈指の古楽アンサンブルのメンバーを歴任し、古楽に精通するバス歌手の一人として国内外で数多くの演奏会や音楽祭に出演している。「ラ・フォンテヴェルデ」メンバー。

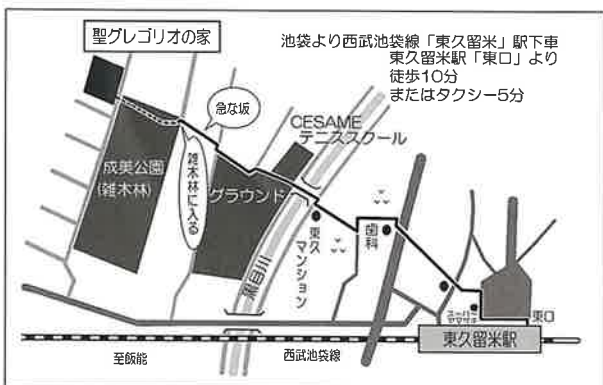
—ゲスト—



加藤 拓未(かとう たくみ/レクチャー)

音楽学者。博士(芸術学)。専門はJ.S.バッハを中心とするドイツ宗教音楽史。NHK-FM「古楽の楽しみ」にも案内役として出演中。著作に『バッハ・キーワード事典』『バッハ・古楽・チェロ—アンナー・ビルスマは語る』など。解説執筆、レクチャー、講演などの活動のほか合唱指導も行い、研究と実践の両面から西欧の宗教音楽の紹介・普及に幅広く取り組んでいる。合唱団「バッハ・ゲゼルシャフト東京」代表。

東久留米市氷川台2の7の12
 聖グレゴリオの家



聖グレゴリオの家チャリティーコンサート

聖グレゴリオの家は、1979年9月に独立宗教法人として故ゲレオン・ゴールドマン神父(フランシスコ会)によって設立され、祈り、研究、教育という3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

日暮里駅より徒歩約2分
 ホテルラングウッド4階
 東京都荒川区東日暮里5の50の5
 日暮里サニーホール



BEATA MUSICA TOKIENSIS

